

◆視点

・サツマイモの重要害虫アリモドキゾウムシの緊急防除

◆研究情報

・スマートフォンカメラを用いた開葉数推定技術の開発  
・食味の優れた極早生のナシ S2103

## 視点

## 本所

### サツマイモの重要害虫アリモドキゾウムシの緊急防除

技監兼病害虫防除所長 青野 守

病害虫防除所では病害虫の発生予察のほか、植物防疫業務を行っています。侵入・蔓延すると重大な被害を及ぼすであろう病害虫を「重要病害虫」として、県内各地に誘引剤を用いた捕虫トラップを設置するなどにより、それらの侵入を調査・警戒しています。

令和4年10月、県内で、アリモドキゾウムシによるサツマイモの被害が、本州で初めて確認されました。アリモドキゾウムシは、「重要病害虫」の中でも特に、植物防疫法に基づく「緊急防除」の対象とされています。直ちに国の植物防疫所の主導で、県、市、農協との緊急会議が開かれ、対応や協力体制を確認するとともに、初動対応として、発生状況の調査と防除を実施しました。生産者等への聞き取りや捕虫トラップの設置、サツマイモ残渣等の調査により数地点で発生を確認し、薬剤防除を実施しました。また、発生が確認された地点を中心に1km以内の区域を設定し、区域内で生産したサツマイモの出荷を停止することとしました。

令和5年3月からは、根絶を目指した「緊急防除」を開始し、上記の区域を対象に、農業者や住民の皆様に対して、サツマイモやエンサイ等の作物やアサガオ等、アリモドキゾウムシが寄生する「寄主植物」の作付け・栽培の禁止と区域外への持ち出しの禁止をお願いしました。また、5月から11月の期間には、定期的に「寄主植物」（野生のものを含む）の有無を調査し、「寄主植物」を抜き取り・除去するとともに寄生の有無を確認しました。さらに、発生地点から2km以内の404地点に捕虫トラップを設置し、月2回の発生調査を行いました。これらの「緊急防除」は、根絶が認められるまで実施しました。

その結果、令和5年11月を最後に、アリモドキゾウムシの発生は確認されず、最初の発生確認から2年強を経過した令和6年11月に、専門家による判断のもと、「緊急防除」を終了することができました。

このような「重要病害虫」の侵入・発生は、いつどこで起こるかわかりません。また、「緊急防除」によるそれらの根絶には、迅速な発見・対応と地域の農業者をはじめとする住民の皆様のお理解と御協力が必要です。怪しい病害虫が見られたら病害虫防除所またはお近くの農林事務所への御一報をお願いいたします。



図1 アリモドキゾウムシの成虫



図2 アリモドキゾウムシの幼虫に食害されたさつまいもの断面

## 研究情報

### スマートフォンカメラを用いた開葉数推定技術の開発

茶生産者は、一、二番茶等の生育期に茶園を巡回して、摘採する茶園の順番を決めておりますが、近年、経営規模の拡大に伴い、経営主が全茶園を巡回して、生育状況を把握することが困難になりつつあります。特に農業法人などでは、経験の浅い従業員らが茶園を巡回することもあるため、生産現場からは、「誰でも、簡単に、短時間で、統一した基準で」茶の生育状況を把握したいという要望が挙がっていました。そこで当センターでは、スマートフォンカメラを用いて、生育状況の指標となる新芽の開葉数を推定する技術を開発しました。本技術では、スマートフォンカメラで撮影した茶の樹冠面画像から、新芽の色を用いて開葉数を推定することが可能です。Google のサービスを利用して、撮影から推定までの全ての作業をスマートフォン上で実行できるのが特徴です。本技術が実装化することによって、多数の茶園を管理する大規模な生産者などが、生育状況を把握する作業が省力化できると期待されます。

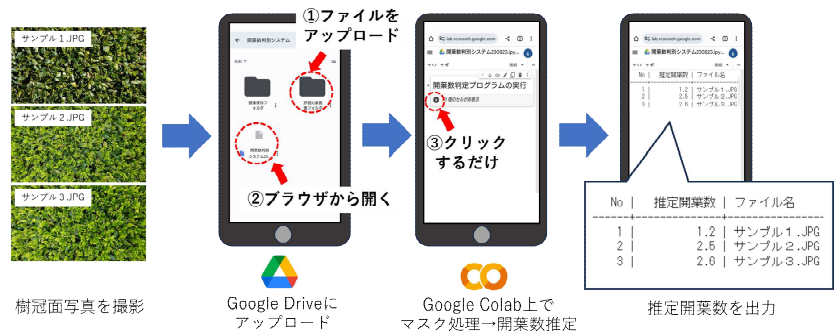


図 スマートフォンカメラを用いた開葉数の推定技術

(農林技術研究所茶業研究センター 茶生産技術科 主任研究員 長谷川和也)

## 研究情報

### 食味の優れた極早生のナシ S2103

果樹研究センターでは平成 11 年に赤ナシの早生品種の育種を開始し、令和 3 年に「S2103」を最終選抜しました。

「S2103」は、7月に収穫が可能な極早生の赤ナシであるため、本県の新盆のニーズに対応ができます。また、本県の主要品種である「幸水」や「豊水」よりも早く収穫ができるため、収穫作業の分散化による経営拡大や高単価による有利販売が可能となります。さらに、夏季の高温や台風などの気象災害やカメムシなどの被害を回避することも可能です。

果実は約 300g（「幸水」と同程度）、糖度は早生品種としては高く、13 度前後になります。また、酸味の少なさ、果肉の緻密さや多汁などの特徴を持つため、生産者や一般消費者からの高い評価を受けています。

樹は黒斑病の抵抗性を有しており、樹勢はやや弱いですが樹冠拡大に支障は生じませんでした。また、開花期は4月上旬（「豊水」と同時期）で、えき花芽はやや少なく、短果枝の維持は中程度です。

今後は、品種登録にむけた手続きを進め、令和 9 年までに苗木の生産を開始できるように苗木生産などの準備を進めてまいります。



図 「S2103」の着果の様子

表 「S2103」の収穫時期と果実品質

年度	収穫期		果実重 (g)	糖度 (度)
	始	終		
2020	8/3	8/11	293	12.1
2021	7/21	8/1	266	13.4
2022	7/25	8/12	317	12.8
2023	7/20	8/8	310	14.5
2024	7/22	7/31	232	13.7

(果樹研究センター 果樹加工技術科 上席研究員 石川隆輔)